

古事類苑

人部二十四

名譽

名譽ハ、ナト云ヒ、ホマレト云ヒ、又面目トモ云フ、善言美行アリテ、人ヨリ稱讚セラレ、ヲ謂フナリ、我國ノ俗、古來特ニ名譽ヲ重ンジタレバ、其事例殆ド枚擧ニ遑アラズ、今其著キモノヲ取リテ此篇ニ收載セリ、

名稱

〔伊呂波字類抄疊女〕名譽

〔易林本節用集女言辭〕名譽

〔類聚名義抄五言音預〕名譽ホマレ 和余ホム

〔伊呂波字類抄人事保〕褒ホマレ 譽 繩 稱 讚 嘆 娘 歎 美同上

〔貞信公記〕天慶八年三月一日、中使敦敏朝臣來云、略成文紀造道橋事、頗得其譽、

〔倭訓栞前編二十八〕ほまれ 譽をよめり、ほめられの義、めらる、反ま也、又まれ、反め也、日本紀に善を

もよめり、

〔日本書紀神代一〕一書曰、是時菊理媛神亦有白事、伊弉諾尊聞而善之ホノミヒラ、乃散去矣、

〔類聚名義抄口名〕名諱名反ナ

〔書言字考節用集九言辭〕名ケツモン聞利リヤウ養ニ法華經有三人號

〔吾妻鏡二十五〕承久三年五月十九日壬寅、二品政子招家人等於簾下、以秋田城介景盛示含曰、略中